



9月定例会へ提出の2022年度決算を読みながら

未来チャレンジ予算として組まれた昨年度の一般会計予算は、コロナ対応・デジタル化推進・マイナンバーカード取得推進・物価高騰対策など12回の補正を経て、予算規模545億円、決算額は歳入が534億円、歳出が513.2億円でした。

「誰一人取り残さない」DX推進として多くのお金が使われました。議会もほぼデジタル化。学校ではGIGAスクール構想ということ、あつという間に一人ずつタブレットが配られICT教育が進みました。コロナ対策の多くがDX推進にあてられています。

一方、他の予算は増えず、洋式化されない学校のトイレ、忙しい先生たちの業務改善などは、遅々として進みません。学童保育や保育現場もコロナ感染の中で疲弊しました。

コロナでケア労働の大切さやわかったはずなのに、医療や介護などは自助が強調され負担が増えています。全国平均と比較しても生活保護1/6、就学援助1/2と困っている人に寄り添える市政になっていないのではとも思います。

住んでいる人間・生活こそ大事にしてほしい。市民も地域も、生活道路や河川、草刈りなど維持管理の充実を望んでいます。工業団地、新しい道路建設などの開発優先で、給食費の保護者負担増はやむを得ないとするような受益者負担論。民営化、民間譲渡、委託や指定管理と公共の役割の縮小が進みました。公立保育園はもう市内にはありません。(公立は認定こども園1、幼稚園2のみ)

私たちは嫌なことや辛かった事などをできるだけ忘れて前に進みます。都合のよいように、いい方に解釈していくことで平常を保つ正常性バイアスもあります。しかし、決算のようであったこと、やったことの総括から教訓を導き出す過程こそすごく大事で、それがこれからつながるのだと思います。決算を読みました。



今年の彼岸花は暑すぎるせいか、ひよろひよろです

消防団再編計画

議会への説明の後、地区説明会にも出席しました。防火・防災力は市民の安心と安全につながる大切な事柄ですが、地域の負担は大きく、納得できる論議が不可欠です。

提案された再編案の概要

- 団員定数 3割程度削減 (835人↓545人)
- 20方面60分団 ↓12方面42分団
- 1分団定数23人↓20人

何の展望も感じない内閣改造

女性が倍増！の見出しに面々を見たら、何のことはない「え、この人が」の再登場に、世襲議員の登用。さらに副大臣26人・政務官28人の中に女性はゼロと失笑です。派閥政治と家父長制の典型です。問題起こしているデジタル・産業経済などの大臣留任に国の問題解決、責任放棄を感じます。



日本共産党

視聴可

100周年記念講演



戦前多くの共産党員は戦争反対を口にしただけで命を奪われました。共産党が非合法化される中で戦争は遂行され敗戦に至ります。戦後も共産党が躍進する度に大きな反共攻撃がおこり後退を繰り返してきました。私の父親は戦後大変な時期に入党しています。父母ら先人の意志を継いで、今私が共産党の議員をしているということとを改めて思いました。

なぜここまで国民に「反共」が浸透しているのか。基本的には、共産党支持が大きくなると都合の悪い方がずっと政治を握っているからでしょう。マスコミを握り、選挙制度をいよいよ変える。どうか偏見にとらわれない目で共産党の政策に対してご意見をいただけたらと思います。

今回の100年の歴史総括の中で、党の誤りについても言及しています。核兵器禁止運動を進める上での理論的誤り、ジェンダー問題への無理解による差別への反省、民主主義的な組織運営の弱さ。

共産党が反省の上に自己変革できなければ未来がないことも事実だと思えます。